

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 学部の理念・目的は適切に設定されているか							
a	◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	①「情報コミュニケーション学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年6月作成)(136頁)において、「1 理念・目的」を掲載している。 ② 学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。					
(2) 学部の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか							
a	◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	①「情報コミュニケーション学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」は、「1 理念・目的」を含め、教授会で承認しており、本学部教職員に周知されている。兼任教員にも学部の理念や教育内容の理解を促し、カリキュラム全体での位置づけを踏まえて授業を行ってもらえるよう、部門別教員懇談会を開催して専任教員との意見交換を進めている。 ② 学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」は、明治大学ホームページに公開しており、受験生を含む、社会一般に公表している。 ③ 学生については情報コミュニケーション学部便覧を配付し、周知している。特に4月の新入生ガイダンスでは、30分をかけた説明を行っている。					
b	●「人材養成の目的の認知状況を確認していること。 【約200字】	2015年度に実施した「大学における学びに関するアンケート」によると、情報コミュニケーション学部の「人材養成その他の教育研究上の目的」の認知度は47.3%である。方針を学生が知ったソースの内訳は以下の通り。 シラバス 26.4% WEBサイト 14.5% 履修ガイダンス 9.1% 便覧 5.5% その他 2.7% 無回答 57.3% 学部としては今後、様々なチャンネルを通じて方針を単に周知するだけでなく理解を浸透させてゆく。	様々なチャネルでの周知が功を奏しており、特にガイダンスでの学生への口頭での理念説明が効果を挙げている。		2017年度から開始された新カリキュラムを意識した、新入生向けに学生アンケートを実施する。		

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(3) 学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか							
a	●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	① 理念・目的の適切性の検証について、「学部自己点検・評価委員会」による検証を実施し、その結果を参考に、毎年度、「教育・研究に関する年度計画書」の作成時に、「執行部」で検証を行っており、執行部（案）を「教授会」で審議承認する手続きとしている。2016年度教育・研究に関する年度計画書は6月19日教授会で承認され決定した。また中長期にわたる学部理念・目的の時代との整合性・妥当性については「将来構想検討委員会」にて随時検討する体制をとっている。 ② 学則別表9「人材養成その他の教育研究上の目的」を変更する際には、教授会審議を経て、全学の教務部委員会、学部長会、理事会の審議承認を経て改正することとなっている。2016年度は改正していない。	「学部自己点検・評価委員会」による検証を踏まえつつ「将来構想検討委員会」が理念や目的とカリキュラムとの整合性を、随時検証し、必要に応じて柔軟に見直しを図っており、それが2017年度の大規模なカリキュラム改定に繋がっている。		新カリキュラムの完成年度を見据えつつ、柔軟にまた積極的に学部改善に資すると思われる施策（例えば、海外招聘教員による科目の設置等）を提案する。		

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか							
a	●＜教員像と教員組織の編制方針＞ 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	① 求める教員像は、「情報コミュニケーション学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年9月作成)(137頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ② 教員組織の編制方針は、「情報コミュニケーション学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年9月作成)(137頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ③ 学部の「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を明記した「教育・研究に関する長中期計画書」を教授会で承認することにより、本学部教職員で共有している。					
b	◎＜基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示＞ 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	① 本学部は、「社会の現在を捉え問題を探ること」「社会を軸にした多様で学際的なアプローチ」「自ら何かを創造し表現すること」の3つの柱をもとに設置している。 ② 「社会調査士」の資格取得科目が体系化されており、社会調査協会の認定された科目を修得すると資格を得ることができる。情報関連教育の充実のため、シスコ社のネットワーク教育プログラムなどのトレーニング教材を導入し、「シスコシステム技術者資格」を取得するための授業科目も設置している。 また、英語コミュニケーション能力の特別強化プログラムとして、英語にSPICE（スパイス）という名称の、国際社会で活躍する能力を養成するためのクラスを設置した。 ③ 本学部の2016年度における総開設授業科目は333科目であり、教養共通科目154科目(うち外国語科目103科目)、専門教育科目179科目である。専門科目は、さらに基礎科目、演習科目、研究科目、講義科目(自由科目)に分類されている。					
c	◎＜組織的な連携体制と責任の所在＞ 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	① 学部の責任体制として、最高議決機関は教授会としており、その責任者は学部長(不在時の代行者:学科長)であり、教授会における議長である。学部長は、学部の全般的な理念と方針の策定、渉外に責任を持ち、学科長はカリキュラムの策定と学部運営を担当することで責任を分担している。さらに、現在のカリキュラム運営と将来の学部運営構想に分けて、機動的な対応ができるように委員会構成をとっている。また、学部内に各種委員会を設けて、そこでの審議事項は執行部会議に取り上げられ、教授会で審議承認している。 ② 学部の基幹的な科目群を担当する専任教員、現場での経験を有する高度に専門的な分野を担当する特任教員、学務の補助的業務を担う助手らの役割分担がなされている。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか							
a	◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること（設置基準第7条第3項） 【約400字】 ※現在数とは、2017年5月1日現在の数値です。	設置基準上の必要教員数は22名であり、これに対して、2017年5月1日現在の専任教員数は46名であり、充足している。					
		設置基準上の必要教授数は11名であり、これに対して、2017年5月1日現在の専任教授数は18名であり、充足している。					
		専任教員一人当たりの学生数について、2017年5月1日現在、収容定員（1,800名）ベースは39.1名であり、学生現員（2,109名）ベースでは45.8名である。	長らくスチューデント・レシオが40を超えた状態が続いていたが、漸く40を切った。	2018年度からの学部定員の増加によりスチューデント・レシオが上がる事が予想されるが、しばらくは現状を維持したい。	これまでスチューデント・レシオが高止まりしていた関係で、長らく兼任に頼る体制が続いてきたが、専任と兼任との役割を今後明確に切り分けていく。		学生の満足度や新カリキュラムの運用を見据えながら、専任の増員についても長期的には要求してゆく。
	b	◎『教員組織の編制方針』と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】	教員組織の編制実態について、専任教員の担当授業時間数は、資格別では教授12.1時間、准教授が11.3時間、専任講師が9.0時間となっている。		負担の教員ごとの偏りがみられるので今後改善策を講じたい。		カリキュラム改正においてコマ数を整理し見直すことで研究時間の確保に学部として努めている。

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
		C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
		本学部は専任教員の他大学への出講時間の制限を設け、大学業務への専念を求めている。また、兼任教員の授業担当への依存度は、50.1%と比較的高くなっている。 教員組織の編制方針による高度教養教育をうたう学際性格の学部を実現するために、専門と教養の区別をもたず緩い4コース制の枠組みのもとで教員構成をしており、教員が学際性を発揮するほど負担が増えている。 各コースの教員内訳は次のとおりである。なお、各コース副担当は、別コースからの出向者・重複者を指す。 Aコース：主担当11名，副担当2名 Bコース：主担当10名，副担当3名 Cコース：主担当13名，副担当4名 Dコース：主担当12名，副担当3名 また、本学部の中期的な教育を充実させるため、ジャーナリズム論の特任教授1名，音楽論の特任講師1名を配置している。	学域横断性を謳う学部の性格上、学生にとって最初から効用がわかっている分野や科目だけではなく、新たな問題や方法との出会いや発見を促す必要があり、そのため多様な科目を設置しなければならない。専任だけではそれをカバーできないため、必要に応じて兼任教員を手当する必要がある。	学域横断性を謳う学部の性格上、多様な科目を設置する必要があるため、専任だけではカバーできない。	今後とも、専任枠では採用することが難しい、特色ある人材を発掘し積極的に採用したい。		スチューデント・レシオ充足の関係もあり、兼任の雇入れには限界と制約があるが、学部理念に照らし、また学生の受容を見据えつつ必要と判断した場合には一定数の兼任を確保したい。
教員の編制方針に沿った教員組織の整備							
C	●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	教員組織の検証プロセスについて、専任及び特任教員任用計画は、「教育・研究に関する年度計画書」へ記載し、毎年度6月の学部教授会で決定している。策定に当たり、SRの枠内で充足させることを原則としており、任用計画の策定については、執行部会及び学部の将来構想検討委員会において「授業担当科目」人数等の原案を示し、具体的な提案を依頼している。そして、その提案に基づき、再度将来構想検討委員会、執行部会で調整し、原案を策定し、教授会に付議・承認する。最終的に、教授会議決案を学部長会へ上程し、学部長会及び理事会決定の後、承認された教員任用計画書に基づく具体的公募要項の作成に移る。こうした検証の結果としてこれまで大幅なカリキュラム改変が二度なされている。本年度も2015年度の検証に基づいて全学的な時間割の変更とも連動した新カリキュラムを策定中であり2017年度の教員組織を新カリに基づいて策定する予定である。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 3 教員・教員組織

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか							
a	●＜規定に沿った教員人事の実施＞ 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	① 教員の任用に際しては、学部で定めた「教員等の任用・採用及び昇格に関する運用内規」に従い、審査を行う。 教員の昇格に際しても、学部で定めた「教員等の任用・採用及び昇格に関する運用内規」及び「専任教員昇格申請手続取扱い内規」により、基準を明文化している。 ② 2016年度での新規採用はなし。2名（准教授から教授1名、講師から准教授1名）の昇格を行った。					
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか							
教員の教育研究活動等の評価の実施							
a	●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	① 教育活動の業績評価について、2016年度授業について実施した「授業科目に対する満足度調査」および授業評価アンケートを用いた教育評価の実施 ② 研究活動の業績評価について、学部紀要である「情報コミュニケーション学研究」においては、教員相互による査読・評価が行われている。 ③ 総合的な業績評価として、学部内のFD委員会刊行の「教員活動成果報告書」を通じて、教員の研究・教育活動を公開する機会を設けている。 ④ 科学研究費に関して、過去3年間の採択率は26.1%であり、2016年度新規採択は1件である。同補助金額は2016年度に12,870,000円であり、前年度からは増額している。					
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性							
b	●教育研究、その他の諸活動（※）に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 ※社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動を指します。 ※『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」（3）教育方法で評価する。 【600～800字】	○C I T I Japanプロジェクト「研究倫理教育プロジェクトの受講」35名。 ○文部科学省公開による「『研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン』『研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン』にかかる学内講習会」受講35名。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画			
			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか								
	a	◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	① 教育目標として学則別表9に「人材養成その他の教育研究上の目的」を定めている。 ② 課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件を明確にした「学位授与方針」を、目指すべき人材像、具体的到達目標として教授会において定めている。					
(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか								
	a	◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示した修得すべき成果を達成するため、教育課程の編成理念、教育課程の編成方針を明らかにした「教育課程編成・実施方針」を教授会において定めている。					
(3) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員及び学生等）に周知され、社会に公表されているか								
	a	◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	① 教職員については学部便覧（7，8頁）及びシラバス（3，4頁）で公開している。また、各種方針は年度計画書に記載される形で、自己点検・評価委員会にて審議・検討され、さらに学科会議を通じて全教員に周知徹底されている。 ② 学生についても学部便覧（7，8頁）及びシラバス（3，4頁）で公開している。新入生に対しては新年度ガイダンスの際に配付し、教職員から内容の説明を実施している。 ③ 社会一般への公表は、学部ホームページにおいて教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を掲載している。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標，学位授与方針，教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
					「改善を要する点」に対する発展計画		
			C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述
b	●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の認知状況を確認していること。 【約200字】	「明治大学における学びに関するアンケート」では、D PやC Pの認知度は30.0%であり、全学平均とほぼ同等となっている。また、これらを知る機会としては、シラバス・本学ホームページ・履修ガイダンスの順であった。	D PやC Pの認知度は30.0%であるが、本学部が学域横断的な性質を持つことを踏まえると、30.0%という数値は、現状では相対的に妥当な数値と考えられる。				
(4) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか							
a	●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	将来構想検討委員会が、学部のカリキュラム編成に関する問題提起及び検討を定期的の実施しており、そのなかで教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性に関する検証や見直しを行っている。2016年度は、同委員会内に設置された履修モジュールワーキンググループ、体育学生支援ワーキンググループにおける作業の結果を踏まえて、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性を検証し、従来の問題点を改善することを念頭に、新カリキュラムの具体的内容や履修モジュールの運用方法について決定した。 将来構想検討委員会での検証の結果や改善の内容については、教授会の承認を得ており、円滑な実施や運用に向けた学部全体としての合意形成が得られている。	本学部の将来構想検討委員会は、幅広い年齢層から専門性を有する委員を指名され、また、他の学部と異なり、教員同士がほぼすべて異なる学問分野に属するために、学会の上下関係から生じるような遠慮も全くなく、容赦のない指摘や批判も繰り広げられており、妥協のない検証の場として機能している。		年齢層や専門分野が偏ることのないように、委員の構成を工夫するとともに、議論がしやすい会議の場としての現状を維持、発展させていく。		

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか						
必要な授業科目の開設状況						
a	◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【300字程度】	① 本学部は、「社会の現在を捉え問題を探ること」「社会を軸にした多様で学際的なアプローチ」「自ら何かを創造し表現すること」の3つの柱をもとに設置している。 ② 「社会調査士」の資格取得科目が体系化されており、社会調査協会の認定された科目を修得すると資格を得ることができる。情報関連教育の充実のため、シスコ社のネットワーク教育プログラムなどのトレーニング教材を導入し、「シスコシステム技術者資格」を取得するための授業科目も設置している。 また、英語コミュニケーション能力の特別強化プログラムとして、英語にS P I C E (スパイス) という名称の、国際社会で活躍する能力を養成するためのクラスを設置した。 ③ 本学部の2016年度における総開設授業科目は333科目であり、教養共通科目154科目(うち外国語科目103科目)、専門教育科目179科目である。専門科目は、さらに基礎科目、演習科目、研究科目、講義科目(自由科目)に分類されている。				
b	●CPIに基づき、必修科目を開設していること。 【200字～400字程度】	社会で活躍するのに必要とされる幅広い教養や、多様な技能を段階的に修得することを目的として、学部独自の選択必修科目及び必修科目として「情報コミュニケーション学入門A・B・C・D」, 「情報コミュニケーション学」を置き、学際的学問分野を段階的に学ぶことができるようにしている。				
c	◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること。 【200字～400字程度】	① 開設総授業科目数に占める教養科目の割合は、333科目中154科目で46.2%である。基礎教育科目部門(教養教育)は、卒業要件124単位中32単位を必要修得単位数としており、学際領域を広くカバーする高度教養教育の実現を目指した教育課程を充実させている。 ② 教養教育については、基礎教育科目部門の中に、コミュニケーション教育を深化する科目として「コミュニケーション基礎ⅠⅡ」「コミュニケーション応用ⅠⅡ」「日本語表現A・B・C・D」を選択必修として設置している。				

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示，科目相関図，4年間の履修モデル，適切な科目区分など）							
d	●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	学生への順次的・体系的な履修への配慮として，本学部では1・2年次での基礎教育科目部門において幅広い教養や総合的な判断力を培い，3・4年次に履修するコース科目の基礎となるような授業科目を体系的に配置している。履修体系図は，シラバスの「設置科目一覧表」，「卒業・進級・卒業見込に必要な単位」，便覧（11ページ）の「カリキュラム概念図」に掲載している。					
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性							
e	●教育課程の適切性を検証するにあたり，責任主体・組織，権限，手続を明確にしているか。また，その検証プロセスを適切に機能させ，改善につなげているか。 【約400字】	① 教育課程の適切性の検証プロセスについては，常設の「将来構想検討委員会」（委員長は学科長）において，定期的にカリキュラム全体及び授業科目の見直しを検討している。学部長は，オブザーバーとして参加している。本学部は教員採用に際しても，「将来構想検討委員会」で検討し，その後，学部全体で担当科目の適切性などをその都度議論している。 ② 2016年度は「将来構想検討委員会」を計7回開催し，教員の補充に伴う担当科目の再検討と共に，将来構想検討委員会の下部組織として設置した履修モジュールワーキンググループ，体育学生支援ワーキンググループがカリキュラムの改訂および特別入試による入学生への適切な指導のあり方について実質的な検討を行った上で，その検討の結果と提案内容について，将来構想検討委員会において合意の上，教授会において審議を行った。 ③「大学における学びに関するアンケート」における授業科目の体系について，77.3%が肯定的意見であり，おおむね満足されているものの，数値からは未だ改善の余地が示されていたので，更なるカリキュラム改訂へのきっかけとなった。	教育課程の適切性を検証するにあたって，将来構想検討委員会が，多様な意見を表明し，集約する場として機能しているため，検証結果について，教授会での円滑な承認を実現し，着実な制度改善につながっている。組織として学科長が委員長となり，学部長はオブザーバとしての参加にとどめているため，学部長の独断で検証が進むことが避けられている。詳細かつ具体的な検討が必要な問題については，時宜に応じてワーキンググループを設置することにより，検証プロセスが適切に機能している。		教育課程の適切性を検証するにあたって重要な役割を果たしている将来構想検討委員会について，年齢層や専門分野が偏ることのないように，委員の構成を工夫するとともに，議論がしやすい会議の場としての現状を維持，発展させていく。		

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目		現状の説明		評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
							(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか								
特色ある教育プログラムの内容とその効果（当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など）								
a	●学部の特色、長所となるプログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】	○「情報コミュニケーション学」（3・4年次必修科目），履修条件：1・2年次で「情報コミュニケーション学入門A・B・C・D」を2科目以上履修することとしている。 ○「創造と表現」（Creation and Expression）を旗印に，単に既存のものを「受容」するだけでなく，新たなものを「創造」し「表現」できる学生を育成するためのカリキュラムを推進しており，論文や文芸などの「言語表現」，ビデオやアニメなどの「映像表現」などがある。 ○「情報コミュニケーション学研究所」を設置し，紀要『情報コミュニケーション学研究』を発行している。 ○学際的視点からジェンダー教育を推進しており，「ジェンダーセンター」が開設されている。ジェンダーに関する学部対応科目も多く設置されており，研究会と連動した教育が行われている。		「情報コミュニケーション学」および「情報コミュニケーション学入門」の履修により，学部の特色のある教育内容が，すべての学生によりよく認識されるに至っている。 新たなものを「創造」し「表現」できる学生を育成するためのカリキュラムの推進は，アクティブラーニングの実践を促している。 紀要『情報コミュニケーション学研究』は，積極的に特集企画や投稿がなされ学域横断的な教育・研究を特色とする本学部がよく表れたものとなっている。 「ジェンダーセンター」は，学生に対しても公開される各種のイベントを開催しているため，対応する学部科目の理解を深めている。			「情報コミュニケーション学入門」については，全学部生が共通して受講する科目であるため，学部の教育目標などについて理解を共有すべき点をアナウンスするなど，ホームルーム的な場として，活用していく。 「情報コミュニケーション学」については，コーディネータである専任教員の学域横断的な研究内容を，教育に反映する場として，発展させていく。	

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価 効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述 改善を要する点・理由 F列の現状から記述		発展計画 「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目 「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果（学部間協定、短期海外交流など）							
b ●学部の特色、長所となる国際化プログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】		① 学部間協定 ・国立全北大学校人文大学（韓国） ・モンクット王工科ラカバン大学（タイ） ・成均館大学芸術学部（韓国） ・香港城市大学（中華人民共和国）人文社会科学学院 ・シーナカリンウィロート大学（タイ）人文学部 ・ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン総合言語・文化研究学部 ② 「国際交流」プログラム 単位付与科目2単位、48名 ・アセアン短期学生交流プログラム（タイ・ラオス） 2016年度 受入:タイ・ラオスの3大学から12名、派遣：14名 ・ベトナム国家大学ハノイ外国語大学東洋言語文化学部（SENDプログラムを利用した学生交流：短期学生交流） 2016年度 受入4名、派遣13名 ・「カリフォルニア州立大学モントレイ校（アメリカ）」との短期留学プログラム 2016年度 派遣：11名 ③ その他 ・ニュージーランドロケ体験プログラム、単位付与科目「国際交流（メディア）」（株式会社フジテレビジョンとの共同企画によるアクティブラーニング・メディアリテラシー講座） 2016年度 合計18名（他学部生8名含む。）	学部間協定を基礎にした国際交流プログラムは、受入および派遣のそれぞれについて安定的に人数を集めており、着実に行われていると評価できる。		受入が少ない国については、学部間協定の対象校を増加するなどして、安定的に国際交流ができる体制を維持・発展させていく。		

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目		現状の説明		評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画
							(当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 教育方法及び学習方法は適切か							
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性							
a	◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。 【約200字】	① 本学部は、「社会の現在を捉え問題を探ること」「社会を軸にした多様で学際的なアプローチ」「自ら何かを創造し表現すること」の3つの柱をもとに設置している。 ② 「社会調査士」の資格取得科目が体系化されており、社会調査協会の認定された科目を修得すると資格を得ることができる。情報関連教育の充実のため、シスコ社のネットワーク教育プログラムなどのトレーニング教材を導入し、「シスコシステム技術者資格」を取得するための授業科目も設置している。 また、英語コミュニケーション能力の特別強化プログラムとして、英語にS P I C E（スパイス）という名称の、国際社会で活躍する能力を養成するためのクラスを設置した。 ③ 本学部の2016年度における総開設授業科目は333科目であり、教養共通科目154科目（うち外国語科目103科目）、専門教育科目179科目である。専門科目は、さらに基礎科目、演習科目、研究科目、講義科目（自由科目）に分類されている。					
履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫							
b	◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。（学部） 【約200字】	① 1年間の履修上限単位数は、各年次半期24単位に設定しているため、年間で最大48単位まで履修することができる。再履修科目についてもこの上限単位数に含む。 ② 各年次の平均履修単位数は、1年次47.1単位、2年次45.2単位、3年次35.8単位、4年次20.6単位である。1年次から3年次について、48単位を超えて履修している学生の割合は、6.1%である。これは、卒業要件外科目（教職課程や、司書課程などの資格過程科目）の履修を行っているためである。 ③ 4年次には、2013年度入学者からは12単位以上を修得しなければならない付加条件を付けている。3年次への進級単位数については、2年次修了時までには、卒業要件内単位数のうち40単位以上を修得する進級条件を付しており、学生の質の確保を維持する仕組みを運用している。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目		現状の説明		評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
c	●履修指導（ガイダンス等）や学習指導（オフィスアワーなど）の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字～400字】	① 履修指導については、年次ごと、年度始めの学習指導週間に履修ガイダンスを行っている。特に入学時の新入生に関しては、総合的なガイダンスの他に、カリキュラム説明，WEB履修の方法，時間割の組み方などを行い，「クラス別アクティビティ」など特徴あるガイダンスも行っている。このガイダンスは、毎年入学式の後に実施し，在学生の成績優秀者の表彰式，専任教員全員の紹介の後，新入生に相応しい催しを毎年策定して行い，クラス別に分かれる。その後は，学生によって組織されている「ゼミナール協議会」が主体となり，事前に提出させている「はじめましてよろしくカード」等を使って，自己紹介やコミュニケーションを図っている。 ② 成績不良者への修学指導を年2回実施し，学部で策定した成績基準に応じて，「履修注意」「履修指導」「退学勧告」を行っている。「履修注意」には，クラス担任が面談に当たっている。 ③ 授業の出席等は個々の教員に委ねられており，学習ポートフォリオ等を活用した組織的な学習実態の把握は行っていない。 ④ 1年次から4年次までゼミナールを開講し，多くの学生が専任教員と少人数の授業の中でコミュニケーションを図っている。このゼミナールにおいて，各教員が履修指導，学習の進め方，卒業後の進路選択等について相談に応じるようにしている。	①履修指導 「クラス別アクティビティ」において入学式直後に学生同士のコミュニケーションの場を設けることで，人間関係の構築やその後の学習効果の向上に効果が認められる。 ②修学指導 修学指導を履修届期間前に行うことで，成績不良の原因を早期につかみ，また学生の興味の対象を面談を通して把握して履修する科目のアドバイスをし，学習意欲の向上につなげている。また，履修科目の優先順位に関する助言なども，事務との連携を図りつつ実施している。		①履修指導 「クラス別アクティビティ」の内容は，学部開設当初から変わっていない。更に高い効果を求めるため，今後，内容の検討を行う。 ②修学指導 修学指導の基準については，これまでの指導の成果を調査の上，さらにきめ細かい指導のために，今後，見直しを検討する。 ④学生相談 ゼミナールに所属していない学生への効果的な対応方法を検討する。		③学習実体の把握 組織的な学習実態の把握の方策についての検討を行う。
学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援，TAの採用，授業方法の工夫等）							
d	●各授業科目において，学生の主体的な学びを促す教育（授業及び授業時間外の学習）方法を採用しているか。 【約400字】	○問題解決形式の授業，オムニバス形式の必修科目「情報コミュニケーション学」 2016年度実績 「学際と法—知的財産法を素材として」「SF」「ドキュメンタリーとは何か」「ドイツ」「原発事故は収束していない」「幸福」 ○ワークショップ形式による学生の参加型授業 ・1・2年次配当の「コミュニケーション基礎」「コミュニケーション応用」「日本語表現A・B・C・D」「演劇学」 ・2年次配当の「問題発見テーマ演習A・B」「身体コミュニケーションA・B」 ・3・4年次配当の「メディア方法論」「メディア言語論」及び各年次配当の「ゼミナール」等，多くの授業科目を設置している。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか						
a	◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】	① 全学部統一様式のシラバス作成を全教員に依頼し、半期15週の枠組みにおいて各回の講義内容を個別に記載し、Oh-o!Meijiシステム上でも閲覧可能となっている。 ② 2013年度より、大学ホームページによる公開を開始し、全学のOh-o!Meijiシステムによって、閲覧可能となっている。本学部のシラバスはOh-o!Meijiクラスウェブシステムを通じて履修ガイダンス前に各自のパソコン等で閲覧することができ、学生は授業開始前に、あらかじめ授業内容を確認した上で履修登録することができる。				
b	●シラバスと授業方法・内容は整合しているか（整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握）。 【約400字】	毎学期に実施している授業改善アンケート「シラバスに示されていた学習目標、内容と合致していましたか」について、2016年度春学期及び秋学期の調査ではそれぞれ70.0％、73.7％であった。また、「指定された教科書等は授業を理解するうえで適切でしたか」について、同比率はそれぞれ50.2％、49.0％であった。		授業アンケートの「指定された教科書等は授業を理解するうえで適切でしたか」については、適切であるとの評価が半数程度であった。		シラバスへの記載内容・教科書の指示に関して検討する。

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
c	●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	① シラバスを依頼する際には、駿河台キャンパスは「担当教務主任」、和泉キャンパスは「一般教育主任」と事務室職員とで確認し、統一様式のシラバスに基づき、授業計画や、学修内容について記載するよう依頼している。依頼文書には、シラバスの趣旨説明、詳細項目についての説明をしている。また、シラバスの作成見本等を添付し、統一した表記となるよう示している。なお、シラバスの内容に不備があるものについては事務室がまとめ、「担当教務主任及び一般教育主任」により追加訂正を求めている。随時内容については検証し、訂正があったものは0h-o!Meiji上で公開し、掲示でも周知している。 ② 学部内FD委員会において、2017年度からのカリキュラム改革に向けて1年生を対象に「授業満足度調査」(2013・2014年度授業に対し実施)を行ない、結果を検証してきた。なお、カリキュラム改革案が固まったため2015・2016年度は同調査を実施していない ③「大学における学びに関するアンケート」では、「1週間の授業外学習時間」は、48.1%が1時間未満であり、単位制度の想定する時間数を下回っている学生層が一定数存在する。また、「科目の予習・復習を行う時」にシラバスを参照する学生は、41.8%であることを考え合わせると、事前・事後学習に関する指示が不明瞭であることが窺われる。学生に事前・事後学習を十分にさせるよう、改善を図っている。		③1週間の授業外学習時間が単位制度の想定する時間数を下回っている学生層が一定数存在し、これらの学生への対応策を検討する。		③学生に事前・事後学習を十分にさせるよう、改善を図る。	
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか							
a	◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約200字】	① 成績評価についてはGPA制度を導入しており、基準については便覧及びシラバスに明記している。評価時点で、S評価(90点以上)の学生が3割以上、SとA評価(80点以上)が合わせて7割以上、F評価(60点未満の落第)の学生が3割以上のいずれかに該当する場合は、教員に採点の根拠の報告を文書で求めている。春学期には93名、秋学期には76名の教員から根拠報告の提出があった。S評価が3割以上になった報告には、予想以上にしっかり学習していた学生が多かったため等の理由が、また、F評価が3割以上になった報告には、試験を受けた学生にはF評価はあまりついていないが試験を放棄した学生数が非常に多かったため結果的にF評価が3割を超えた等の理由が記されていた。いずれも妥当な理由であると思われたため特別な対応はしていない。 ② 成績分布に関して、各学年における平均GPAは1年生2.33、2年生2.21、3年生2.35、4年生2.26となっており、一定の範囲に収まっている。また、1年生の「S・A・B・C・F」各評価の分布は「23%, 28%, 23%, 15%, 11%」となっている。他の学年についてもおおむね類似した分布傾向が見られるため、ほぼ一定の基準で成績評価がなされているものと推測される。	①教員が授業の難易度、進度を意識することにより、授業内容の改善に役立っている。 ②S～F評価の分布について、あらかじめの目標(割合)が示されていることで、教員のほうにも厳正な基準をもって評価するという強い自覚が促される。 ③S～F評価の調査の結果、および成績分布から、成績評価は適切に行われていると判断できる。		現状では特段の問題はないが、今後も継続的に調査および検証を行い、更なる授業内容の充実に必要な方策の検討を行なう。		

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(４) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善（授業に関わるFD活動）に結びつけているか							
a	◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約４００字】	○「専任教員活動成果報告書」 FD委員会主導、担当授業の取り組みを記述し、互いに利点や問題点を披露している。これは、2008年度にFDの取組みとして発刊が開始され、基本ポリシーに基づいて編まれている。 ○ 担当者連絡会（同一科目を多くの教員で担当する場合） 日本語表現8名、コミュニケーション基礎・応用9名が担当。それぞれの科目で授業内容、評価基準の統一を図ることを目的に打合せを開催。 ○「授業担当教員懇談会」 授業運営上の問題点の共有や意見交換のために、毎年4月7日の入学式後に開催している。2016年度は、専任教員40名（出席率95％，在外研究者除く），兼任教員39名が出席した。また，同一科目を複数の教員で担当する語学科目，日本語表現科目等については，授業担当教員懇談会の前に科目別懇談会も設け，きめ細かい意見交換を図っている。	懇談会や連絡会の場で、授業運営上の問題点や授業の工夫に関して意見交換をすることで、学部教育での問題点の共有や、個々の教員の授業の改善が図られている。 特に新任の兼任教員を対象とした科目別懇談会では、学部の基本ポリシーや学生の特徴、授業の共通指針などを伝えるほか、実際に使用する教室を案内して機器類の操作方法を示すなど、きめ細かな対応を行っている。		今後も継続的に懇談会や連絡会を開催することで、より一層の授業の改善を図る。		
b	●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約４００字】	○ 授業改善アンケート ＜2016年度アンケート実績＞ 春学期実施率33.2％（総科目数509，実施コマ数169） 専任教員のうち実施している者は，職格別に教授7名（36.8％），准教授10名（50％），専任講師5名（62.5％）となっている。 秋学期実施率30.3％（総科目数485，実施コマ数147） 専任教員のうち実施している者は，職格別に教授5名（25.0％），准教授6名（31.6％），専任講師4名（50.0％）となっている。		授業改善アンケートの実施率が不十分である。		アンケートの実施率を高める方策を検討する。	

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
C	●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	① 教育内容・方法の改善プロセスについて、これまでの教育内容・方法等をさらに改善する際には、将来構想委員会に諮り検討している。案件によりワーキンググループを作り、そこで詳細な内容を策定する。 ② 2013年度より運用を開始した新カリキュラムは、将来構想委員会で方針を立て、何度も一部改訂を行いながら改革案を策定した。カリキュラムに関しては、部門、コース、科目群ごとに議論し、議論の結果を将来構想委員会でまとめて行った。こうした段階を経た後、教授会で審議し決定した。教授会ですぐに意見がまとまらない時は、継続審議とし、原案を提出した会議体で再度検討することを何度も行った。このように最終決定まで、全員参加で賛同するプロセスを踏んでいる。 ③ また「明治大学における学びに関するアンケート」では、授業形態・方法の満足度を調査しており、満足の割合が「グループワークなど共同作業による学習、研究活動」が約86%、「少人数によるゼミナールや演習」が約89%と高いため、対象授業の充実について検討を行っている。					
		④現状の説明欄 本学部のDPは、「現代社会を多角的な視点で見極める能力」，「自ら問題を発見し，解決方法を探るプロセスを組み立てることができる能力」，「人文科学・社会科学・自然科学を包括する学際的な素養」である。 「大学における学びに関するアンケート」を分析した結果，「現代社会を多角的な視点で見極める能力」，「自ら問題を発見し，解決方法を探るプロセスを組み立てることができる能力」，「人文科学・社会科学・自然科学を包括する学際的な素養」のいずれについても，「ゼミや演習」，「実習・実験」，「フィールドワーク」，「外部講師など」の貢献度が高いことがわかった。一方，「学際的な素養」に関しては，「課題の添削や返却」，「小テストや定期的な課題」の満足度が低く，確認の必要がある。 本学部のCPでは，「学生の主体性」を尊重しており，「ゼミや演習」，「実習・実験」，「フィールドワーク」，「グループワーク」，「プレゼンテーション」に対する学生満足度はいずれも高く，授業形態・方法が適切であるといえる。	本学部のDPのいずれについても学生満足度は高く，一定程度有効な教育ができているといえる。	「学際的な素養」に関して，「課題の添削や返却」，「小テストや定期的な課題」に関して学生満足度が低く，教育の有効性の確認が必要である。 フィールドワークを経験した学生の満足度は高く，教育の有効性も高いが，経験していない学生が40%以上いた。	1，2年生のゼミについては，これまで非常勤講師も担当していたが，今後は専任教員のみが担当することとし，従来よりさらにきめ細かい授業を行うように図る。また，さらなる学習効果の向上のための方策を，将来構想委員会で検討する。	「課題の添削や返却」，「小テストや定期的な課題」に関して，FD委員会等で意見交換を行ない，効果を高める方策について検討する。 フィールドワークについては，より多くの学生が経験できるよう，さらなる充実を検討する。	DPの達成のため，将来構想委員会を中心としてさらなるカリキュラムの改善を検討する。

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成 果

点検・評価項目		現状の説明		評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画
							(当年度・次年度対応) H列にあれば記述
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか							
b	●学位授与にあたって重要な科目（基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目，卒業論文や演習科目など）の実施状況。 ●学習成果の「見える化」（アンケート，ポートフォリオ等）に留意しているか。 【約400字】	① 本学部は，「社会の現在を捉え問題を探ること」「社会を軸にした多様で学際的なアプローチ」「自ら何かを創造し表現すること」の3つの柱をもとに設置している。 ② 「社会調査士」の資格取得科目が体系化されており，社会調査協会の認定された科目を修得すると資格を得ることができる。情報関連教育の充実のため，シスコ社のネットワーク教育プログラムなどのトレーニング教材を導入し，「シスコシステム技術者資格」を取得するための授業科目も設置している。 また，英語コミュニケーション能力の特別強化プログラムとして，英語にS P I C E（スパイス）という名称の，国際社会で活躍する能力を養成するためのクラスを設置した。 ③ 本学部の2016年度における総開設授業科目は333科目であり，教養共通科目154科目（うち外国語科目103科目），専門教育科目179科目である。専門科目は，さらに基礎科目，演習科目，研究科目，講義科目（自由科目）に分類されている。 「卒業論文・卒業研究」が，幾つかの4年次ゼミナールにおいて行われ，各種の成果物が作成されるとともに，学生論文集「情コミ・ジャーナル」を実施している。	公務員試験や教職課程認定に合わせた科目を継続して実施し，社会調査士も安定的に相当数を輩出している。 学生論文集「情コミ・ジャーナル」は，毎年相当の数の論文が投稿され，審査・公表されている。学域横断的な学部であり，学生の研究関心を把握する上で，他学部にも比して極めて重要な役割を果たしている。学生の意欲的な活動が目に見える形で把握されている。		情コミジャーナルの投稿数は，現状でもかなり多いが，その数値を維持しあるいは，更に投稿数を増やすため，就職活動で停滞しがちである4年ゼミのあり方を将来構想検討委員会において検討していく。		
	●学位授与率，修業年限内卒業率の状況	学位授与については，2016年度は，4年次在籍学生551名（2017年4月2日現在）のうち，474名（9月卒業16名を含む）が卒業し，卒業率(学位授与率)は86%であった。卒業率は，2014年の82.7%，2015年の84.9%と比較して，安定的に維持されている。 標準修業年限卒業率は2013年度入学した学生で84.5%である。	学位授与については，2016年度は，4年次在籍学生551名（2017年4月2日現在）のうち，474名（9月卒業16名を含む）が卒業し，卒業率(学位授与率)は86%であった。卒業率は，2014年の82.7%，2015年の84.9%と比較して，安定的に維持されている。 標準修業年限卒業率は2013年度入学した学生で84.5%である。				

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成 果

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
	●卒業生の進路実績と教育目標（人材像）の整合性があるか。	卒業生の進路実績は、卒業生474名の内88.2%に当たる418名が就職している。学際的な素養を身につけた学生の進路先は、他の文系学部と違った様々な方向に就職しているとの結果がでている。就職先の具体的な内訳については、新聞・出版・放送・情報通信業が最も多く21.8%，ついで金融業17.5%，卸売業・小売業が15.6%，となっている（数字はすべて2017年3月31日時点）。メディア関係、情報関係の比率は本学の全学部を通じて最も高く、学部の特色と学生の進路とが多くの場合合致していることを示している。また、大学院進学者は6名である。本学部では変化の大きい現代社会を多角的な視点で見極め、そのなかから自ら問題を発見し、解決方法を探るプロセスを組み立てることができる人材の育成を目指している。その教育内容は社会科学を軸とした学域横断的な教育を展開しており、現実社会の動きに対して敏感となる結果、卒業生の進路は他学部に比べて報道メディアや情報サービスの分野に進出が目覚しい。	卒業生の進路実績は、他の幾つかの文系学部と比べて、就職先において偏りのない結果がでており学域横断的な学部の特徴があらわれている。また、他の学部と比較してメディア関係や情報関係の比率が高いことは、本学部の教育目標が進路実績と整合したかたちで実現されていると評価できる。		就職分野において偏りのない現状を維持するとともに、現状、メディア関係や情報関係の比率が若干高いこと意識しながら、学生の現実のニーズに対応できる科目を充実させていく。	
C	●学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を実施しているか。 【約400字～600字】	学生の自己評価については、「アンケート調査（就職キャリア支援事務室）」を実施している。全学版以外に学部独自の「新入生向けアンケート」を実施し、志望・進学動機や期待、将来展望、併願受験先についてのアンケートを調査している。新入生への学部独自のアンケート調査の結果は、執行部会及び将来構想委員会の参考資料とされ、学生の期待にこたえるカリキュラム作りに貢献している。	学生の自己評価や学部独自の新入生向けのアンケートが実施され、カリキュラム作りに生かされていると評価できる。		学部独自の「新入生向けアンケート」について、必要な事項を絞り込み、より多くの新入生に正しく回答をしてもらえるように工夫する。	
	●学生の自己評価を実施しているか。 【各約300字】	毎学期に実施している授業改善アンケートにおいて、学生の授業に対する達成度を2つの調査項目から学生（全学）の満足度を図っている。本学部については、「この授業で新しい知識や考え方を得ることができましたか」とする「新しい知識・考え方の習得」に関する質問に対しては、2016年度春学期及び秋学期の調査ではそれぞれ73.4%（「ふつう」を含めると96.9%），73.9%（「ふつう」を含めると97.3%）であった。また、「あなたのこの授業に対する自己採点は何点ですか」とする「講義の自己採点」に関する質問について、上位からS，A，B，C，Fランクで回答するよう求めた項目に対しては，SとAが占める比率はそれぞれ64.5%（Cまで含めると95.4%），66%（Cまで含めると96.4%）であり、これらのことから主体的に授業に臨め、シラバスに定める到達目標を達成していることが見て取れる。	アンケートの結果からは、学生が主体的に授業に臨み、シラバスに定める到達目標を達成していると評価している。		学生の自己評価をより正確な数値にするため、教授会でのアナウンスなどを通して、授業改善アンケートの実施率を高めていく取り組みを行う。	

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成 果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画	
					「改善を要する点」に対する発展計画	
			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述
		「明治大学における学びに関するアンケート」では、学習成果の自己評価を調査しており、「入学して、自分自身が成長したか」の項目について、成長または少し成長した、の割合が約80.9%であるため、学生は成長を自覚していることが読み取れる。	「明治大学における学びに関するアンケート」のデータにおける、学生が自己の成長をある自覚する割合（8割）は、高い値を示していると客観的に評価できる。		より高い数値を目指すため、授業担当教員懇談会において、教育のあり方について意見交換をし、その内容を反映させていく。	
		本学部の定めるDPは、「変化の大きい現代社会を多角的な視点で見極め、そのなかから自ら問題を発見し、解決方法を探るプロセスを組み立てることができる人材の育成」「「情報コミュニケーション」をキーワードに文系・理系の枠を越えた教育カリキュラムを展開し、人文科学・社会科学・自然科学を包括する学際的な素養を身につけた、高度情報社会の水先案内人あるいはナビゲーターを育てること」である。 「大学における学びに関するアンケート」において、学生の成長感と学習成果（DP）の関係性を分析した結果、学生が成長したと感じた能力として「異なる専門分野を横断した知識を活用できる能力」「現代社会を理解する知識」、「問題点を発展し、分析する力」、「新しい物事に挑戦する力」に相関がみられた。	学生の成長感と学部で定めているDPとがおおむね一致しており、このことは、運用しているカリキュラムや科目、授業方法の設定の仕方が、ある程度、教育の効果を高めるものとなっていると評価することができる。。		学生の成長間とDP達成感との相関をより強いものとするため、カリキュラムや授業内容・方法について、将来構想検討委員会での検討を通して、その長所として伸張するための新しいカリキュラムや授業方法を検討していく。	

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 4 教育内容・方法・成果 4. 成 果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
		C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(2) 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか							
a	◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎（研究科）学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準（学位論文審査基準）を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	卒業要件については、学部便覧及びシラバスに、「卒業・進級・卒業見込に必要な単位」として一覧表にして明記している。2013年度よりシラバスを電子化しており、大学ホームページ上でもこの一覧表を確認できるようになっている。年度初めの学習指導週間に実施するオリエンテーションにおいて、適切に説明もしている。また、12月には、4年生向けの卒業ガイダンスを実施し、卒業に際しての注意点等説明している。					
b	●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】	学則に定める期間在学し、卒業要件を満たし、必要な単位を修得した学生に対し学位を授与している。卒業の判定に際しては、あらかじめ学生に周知徹底された卒業要件の達成状況を審査し、「教授会」において全教員で判定を行っており、客観性が担保された手続きを踏まえている。早期卒業制度は内規で定めており、学生には、3年次の学習指導でガイダンスを実施している。申請資格は、2年次修了時に卒業に必要な124単位以上のうち76単位以上を修得していること。S及びA評価が総単位数の80%以上であること。GPAが3.2以上であること。大学院への進学が目的であること。以上が必須であり、所定の手続きを取らなければならない。そして、早期卒業要件を満たした者が早期卒業となり、教授会において判定を行っている。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画			
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由	改善を要する点・理由	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
			F列の現状から記述	F列の現状から記述		(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか (「AP」の全文記述は不要です)								
a	「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示 ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】	① 本学部は、「社会の現在を捉え問題を探ること」「社会を軸にした多様で学際的なアプローチ」「自ら何かを創造し表現すること」の3つの柱をもとに設置している。 ②「社会調査士」の資格取得科目が体系化されており、社会調査協会の認定された科目を修得すると資格を得ることができる。情報関連教育の充実のため、シスコ社のネットワーク教育プログラムなどのトレーニング教材を導入し、「シスコシステム技術者資格」を取得するための授業科目も設置している。 また、英語コミュニケーション能力の特別強化プログラムとして、英語にSPICE（スパイス）という名称の、国際社会で活躍する能力を養成するためのクラスを設置した。 ③ 本学部の2016年度における総開設授業科目は333科目であり、教養共通科目154科目(うち外国語科目103科目)、専門教育科目179科目である。専門科目は、さらに基礎科目、演習科目、研究科目、講義科目(自由科目)に分類されている。						
(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか								
a	●学生の受け入れ方針と入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。 【約800字】	情報コミュニケーション学部では、入学者の受入方針に基づき次のとおり複数の入学形態を設け、多様な人材を確保するため、各種試験方法を設けている。 一般入試として、①一般選抜入学試験（A方式：英語、国語、社会・数学の選択科目による3科目方式、B方式：英語、情報総合、数学による3科目方式）、②センター利用入試（3科目方式と6科目方式）、③全学部統一入試（3科目方式）を実施している。これら試験については、入学者の受入方針に明示した知識の水準等をより具体的に示すために、受験生向けに「入試問題の作問のねらい」を学部ホームページで公開している。これらの他に、推薦入試として付属高校推薦入試（面接）、特別入試として留学生入試（小論文・面接）、スポーツ特別入試（推薦・面接）及び編入学士入学試験（小論文・英語・面接及びプレゼンテーション）を実施している。						

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか							
収容定員に対する在籍学生数比率の適切性							
a	◎学部・学科における過去5年の入学定員 に対する入学者数比率の平均が1.00であ る。 ◎学部・学科における収容定員に対する在 籍学生数比率が1.00である。 ◎学部・学科における編入学定員に対する 編入学生数比率が1.00である（学士課 程）。 【約200字】	① 過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均は、1.11で ある。 ② 2017年度の収容定員は4学年で1,800名、在籍学生数は2,109名 であり、収容定員に対する在籍学生数比率は1.17である。 ③ 2017年度外国人留学生の入学者は25名で、全入学生481名にお ける割合は5.2%である。 ④ 2017年度編入学試験による入学者は7名である。					
定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応							
b	◎現状と対応状況 【約200字】	2011年度の入学定員の超過率が1.20倍を超えたため、2012年度 は1.10、2013年度は1.04としたが、2014年度に再度1.20を超え た。超過率が高い状態が発生したので、2015年度は1.13、2016年 度は1.10、2017年度は1.06として段階的に調整を行った。なお、 2014年度の入学定員の超過率に対応するため、クラス数を相当数 増やし、少人数による授業の効果を維持できるように配慮してい る。また、ゼミナール科目に関しても、担当教員数の増加、各教 員に対して極力募集定員までの受入れを奨励するなどして、在籍 学生数の多寡に伴う不利益が生じないように配慮している。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 5 学生の受け入れ

点検・評価項目		現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか							
a	●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	A Pは毎年6月頃に「教育・研究に関する年度計画書」を教授会において審議する上で、執行部で予め確認をした上で、教授会の審議事項として承認を得るというを行っている。特にAPを改正する場合には、C PやD Pの内容とも連動することから、「将来構想検討委員会」の会議で検証を行った上で、起案するというプロセスで実施している。 自己点検・評価結果における在籍学生比率の適正化については学部執行部が毎年春の執行部会で検討の上、教授会の審議を経て、翌年の入学者数について決定している。 具体的な入学試験制度に関しては、情報コミュニケーション学部の教育理念を実現するための選抜方法の適切性及びその基準の妥当性を検討について、「将来構想検討委員会」が具体的な検証を行っている。 入試問題の外部評価制度に則り、外部機関に入試問題の評価を委託し、学部ではその評価を受けて、入試各科目の出題責任者・出題委員の会合において、当年度の入試問題の作成の改善に活用されている。 同委員会による近年の具体的な入試の改善実績としては、一般入試において導入したものの受験生の伸び悩みを示していた「B方式」試験の検証を実施し、問題を明らかにした上で同入試形態を廃止すると同時に、情報総合の科目を選択科目に移行するという改善を行った。 「明治大学における学びに関するアンケート」では、入学者の志望度を調査しており、学年によって多少の差はあるが、第三志望以下が約24.5%、かつ志望学部・学科への入学率が86.4%であり、不本意入学者は少ないことがわかる。 追跡調査として、修学委員会では、履修指導の対象学生について、入試形態を一覧にした表を作成し、成績不良の傾向に入試形態による有意な差異がみられるかどうかを検証しており、そのデータは教授会でも把握されている。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか							
a	●修学支援に関する方針を、理念・目的、 入学者の傾向等の特性を踏まえながら定め ているか。また、その方針を教職員で共有 しているか。 【約200字】	① 修学支援方針は「情報コミュニケーション学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年9月作成)(150頁)において、「学部内に修学委員会を設けて、学期毎の授業開始前の期間に学生の履修状況を把握し、履修上問題のある学生に対してはクラス主任が個別面談により指導を行い、必要に応じてゼミナール担当教員も加えた複数教員による指導を行っている。現状では履修上の問題が長期間にわたる学生もあり、この問題の解決のために、1・2年次の早い時期に学生の状況を把握し、問題となりそうな学生については相談に応じるなどの対応を進めている。今後は、より効果的な指導方法及び体制を検討する」こととしている。 ② 年度計画書を承認することにより、教授会員に方針のもと、学生支援の現状と展望を周知している。また、学部内に修学委員会を設けて、学期毎の授業開始前の期間に学生の履修状況を把握し、履修上問題のある学生に対してはクラス主任が個別面談により指導を行い、必要に応じてゼミナール担当教員も加えた複数教員による指導を行っている。 ③ この方針は学部便覧に「修学指導」のページを設け、修学指導体制を記載し、学生へ周知している。					
b	●方針に沿って、修学支援のための仕組み や組織体制を整備し、適切に運用している か。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	学部の標準修業年限退学率を見ていると、2013年に入学した学生数が472人に対し2017年3月に卒業した学生数は399人で標準就業年限卒業率は84.5%となり、全学の卒業率82.9パーセントを上回る数字である。また、2017年3月までに退学した学生数は11人、交換留学生が13人と標準修業年限を通じての退学率は2.3%となり、全学の数値3.0%を下回る数値となっている。また、入学後一年以内に退学した率は2016年4月に入学した学生数495人に対し、退学したした学生数6人と1.2パーセントとなっており、全学の平均1.4%より若干低い数値となっている。	標準修業年限卒業率が2015年度に比べ2016年度では0.6%上昇している。		成績不良である学生については、主な指導教員により、面談を実施することで、意識を高めているので、今後も継続的に、該当学生との面談を行い、標準修行年限卒業率をさらに向上させていきたい。		
		障がいのある学生に対しては、入学時に教務主任及び事務局で面談を行い、個別対応をしている。過去2名の学生がいたが、其々の要望に応じてサポートを行い、優秀な成績で卒業した。	2016年度は、該当学生がいなかった。				

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画	
			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
		外国人留学生については、入学時に別途ガイダンスを実施し、履修指導等を行っている。				
		全ての学生に対して、入学時や学期始めにはオリエンテーションを行い、履修指導を徹底している。 中でも、修得単位とG P Aに応じて成績不良と判定された者(半期ごとに判定)は、履修指導の対象となり、学習計画書の提出、クラス主任を中心とした面談を行った後、1年間の指導期間に入る。 不登校の学生に対しては特にそのような学生だけを対象としての措置はとっていないが、修学委員会委員及びゼミナール担当教員が学生の履修状況を学期ごとに把握しており、履修状況に問題のある学生に対しては教務主任、クラス主任等の相応しい教員が面接にあたり、学生の事情に合った指導を行っている。	2016年度は、成績不良と判定された履修指導を受ける学生が一年の指導期間のあとでは成績不良者10%程度減少し、指導の成果が見られる。			

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
		C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(2) 進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。							
a	●進路支援に関する方針を、理念・目的、 入学者の傾向等の特性を踏まえながら定め ているか。また、その方針を教職員で共有 しているか。 【約200字】	① 進路支援方針は「情報コミュニケーション学部 2017年度教育・研究に関する年度計画書」(2016年9月作成)(150頁)において、「入学時と進級時にガイダンスを行い、担当の教員が助言し、相談に応じる体制をとっている。また、ゼミナールにおいても各教員が相談に応じ、就職キャリア支援事務室が実施するゼミナール単位での就職相談会に参加している。さらに大学全体の就職支援以外に、学部独自で就職セミナーを毎年開催し、内定者による業界説明、就業活動のノウハウとアドバイスを中心に、学生就職支援を行っている。」としている。 ② 年度計画書を承認することにより、教授会員に方針のもと、学生支援の現状と展望を周知している。また、学部内に修学委員会を設けて、学期毎の授業開始前の期間に学生の履修状況を把握し、履修上問題のある学生に対してはクラス主任が個別面談により指導を行い、必要に応じてゼミナール担当教員も加えた複数教員による指導を行っている。 ③ 学部便覧に「修学指導について」のページを設け、(1)入学時・新年度・卒業前に実施する各種ガイダンスの開催、(2)学部窓口での指導、(3)修得単位数に応じた個別指導を行う修学指導体制を記載し、学生へ周知している。					
b	◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、 キャリア形成支援教育の実施等、組織的・ 体系的な指導・助言に必要な体制を整備し ていること。 【約400字～800字】	学部専任教員の分掌としての「インターンシップ科目部会」を中心に①卒業時の企業等への就労の準備、②大学在学中に可能な諸資格の取得、③国内外の大学院への進学、に関する支援を行っている。 入学時と進級時にガイダンスを行い、担当の教員が助言し、相談に応ずる体制をとっている。また、ゼミナールにおいても各教員が相談に応じ、就職キャリア支援事務室が実施するゼミナール単位での就職相談会に参加している。さらに大学全体の就職支援以外に、学部独自で就職セミナーを毎年開催し、内定者による業界説明、就業活動のノウハウとアドバイスを中心に、学生就職支援を行っている。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 6 学生支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画		
					「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
		①に関しては、学部カリキュラムとして、1年次に「キャリア・デザイン」（2単位）を開設し、2年次には「インターンシップ入門」（2単位）を開設し、その単位取得者を対象として、3年次に「インターンシップ」（3単位）を開設している。「キャリアデザイン」では、毎回、各界で目覚ましい活躍をされている方々を講師として招聘し、「インターンシップ入門」では、企業やNPOをはじめとする各種の事業体でのインターンシップの準備学習をめざしている。3年次の「インターンシップ」では、インターンシップ実習先の選定やマッチングの支援、及び実習直前の「ビジネス・プレゼン講習」や「ビジネス・マナー講習」の設定、実習後の総括学習授業の運営、等を行っている。 加えて、大学の「就職キャリアセンター」と密接な連絡をとりつつ、3年次の個別ゼミ単位の「就職活動準備セミナー」の実施の手配をしている。また、毎週金曜日5・6限は学部主催の各種イベント（講演会等）のために学部専任教員の授業を組んでおらず、この時間帯を利用して学生の就職希望の高い業界の内定者、あるいはすでに就労している本学部OB・OGを招いてのフォーラムの開催などを行っている。	2016年度本学の資格講座を受講した学生は、71人、また、検定料補助を使った受験者は1288人で、前年比それぞれ、7.5%、13.5%増え、将来のキャリア形成に備え様々な資格をとる学生が増えている。		今後も現状実践している、インターンシップ、キャリアデザイン関係授業、就職活動準備セミナー、及びリバティーアカデミー資格講座の受講指導、OB・OGに協力を得ての大学院進学相談会などを一時的なものに終わらせず、その時々 of 学生のニーズと呼応させるようにしながら、継続的に続けることで、より学生の就職率の増加、将来設計形成支援を推進する。		
		②に関しては、全学的組織である「資格課程」や「リバティ・アカデミー資格講座」の受講に関する指導や、学外団体の各種資格検定受験の際の検定料の補助（例えば、5,000円の検定料のうち4,000円を、学部予算で補助するなど）を行っている。 ③に関しては、大学院情報コミュニケーション研究科と密接な連絡をとりながら、本学を含む国内外の大学院に進学したOB・OGの体験談を含む進学相談会を開催している。					
		「明治大学における学びに関するアンケート」問28及び29において、進みたい方向を決めている割合、さらには行動している割合は、それぞれ65.5%、60.0%であり、さらなる進路支援が必要と考えている。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	評価		発展計画		
			効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか							
a	◎自己点検・評価を定期的 to 実施し、公表していること。 【約400字】	本学部における自己点検・評価は、学部内に設置された情報コミュニケーション学部自己点検・評価委員会(執行部会メンバー兼務)によって行われている。本委員会は執行部会と区別するため学科長を座長に学部長ほか、教務主任・一般教務主任といった全6名の学部執行部で構成している。 2016年度は2回の委員会を開催し、2016年度情報コミュニケーション学部自己点検・評価報告書」を作成した。 また、学生のアンケートは全学で実施している授業改善のためのアンケート以外に、卒業生に対し大学生活、学業達成での問題点についての事後アンケートを、さらに新入生にも志望・進学動機や期待、将来展望、併願受験先についての事前アンケートも実施し、調査している。 さらに、カリキュラム改革や入試改革などに関しては、臨機応変に学生に対する満足度調査や意見聴取を行い、次年度以降の運営や方針立案への参考資料としている。これらの資料は、2017年度のカリキュラム改訂にむけて参考とした。 さらに、卒業生・新入生等への学部独自のアンケート調査の結果は、執行部会及び将来構想委員会の参考資料とされ、学生の期待にこたえるカリキュラム素案作りに少なからず貢献している。 全学版についてはあまり活用していない。					
(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか							
a	●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること	・本学部の内部質保証の基本方針は、「教育・研究に関する長中期計画書」（153-154頁）「9 内部質保証」において掲載している。 ・本学部は、学部内に設置される各種委員会の殆ど、しかも重要な委員会の全てに執行部会メンバー1名以上を構成員もしくはオブザーバーとして配置し、常に学部内で何が行われているかを把握し、学部運営上の内部質保証体制にある。 ・学部内に「紀要編集委員会・FD委員会合同委員会」が設置され、また、メンバーの相互乗り入れによって「自己点検・評価委員会」との連携を実現することで、「倫理的な観点」の導入を図り、内部質保証の実現に向けた努力をしている。（一例を挙げれば、紀要投稿論文の全てに査読をする体制を確立した。（2012年度）） ・学部内に「自己点検・評価委員会」（執行部会兼務）が設置され、点検評価すべき事項を把握し、改善案をさぐる努力をしている。					

2016年度 情報コミュニケーション学部 自己点検・報告書

基準 1 0 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。		現状の説明		評価		発展計画	
						「改善を要する点」に対する発展計画	
		C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください		効果が上がっている点・理由 F列の現状から記述	改善を要する点・理由 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述
	●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ● 文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること	2014年度に受審した認証評価の評価結果は、すべてにおいてA評価であったが、「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」では「4つのコースと3つの柱との有効な関係性や具体的な組み合わせを理解するのは必ずしも容易ではない」、「学生にわかる教育課程の編成が検討課題」、「シラバスと授業内容の整合性について学生の意見を聞くことができる授業評価アンケートの実施率が低い」との指摘を受けている。 将来構想検討委員会では、現行カリキュラムを見直し、この評価結果も踏まえ、全学の新カリキュラムとの整合性を取りつつも、本学部の教育理念を反映させた2017年度からの学部新カリキュラムの構築を進めている。					
	●学外者の意見を取り入れていること	・学外者の意見については、入学時における父母懇談会の実施)の他、毎年度、全国各地で行われる父母懇談会総会及び個別相談会で父母との密接な交流を図り、各種情報(父母会懇談会報告書特記事項)は、学部執行部にまとめられると同時に、学部内の関連する委員会及び教員に口頭で連絡している。 ・高校への出張講義の際などには、可能な限り教職員との意見交換を行い、学部への評価や要望についての情報の入手と、学部運営へのフィードバックを心掛けている。 ・兼任を含めた年度初めの教員向けガイダンスにおいて、倫理項目の確認と同時に、学外者の目から見た制度的な課題を指摘して貰っており、必要に応じて制度改革にフィードバックしている。 2016年度の事例として、1年生基礎ゼミ、2年生問題発見テーマ演習の活性化と3・4年次のゼミナールとの連携強化のあり方についての提言があった。これを受け、専任教員での学生面談等をさらに充実させていく予定である。					